

名誉市民、前砂川市長

故菊谷勝利氏をしのぶ

7月5日に76歳で逝去された、砂川市名誉市民で前砂川市長の菊谷勝利氏の市葬が、7月9日の午前11時からメモリアルわしおにおいて、厳粛に執り行われました。故人が残された偉大な功績をたたえ遺徳をしのぶために、多くの市民や来賓の方々が参列し、故人のめい福を祈って最後のお別れをしました。



執務中の故菊谷氏

菊谷氏は、平成11年に第4代砂川市長に当選して以来、同23年に勇退されるまでの3期12年間、市政推進、地域の振興発展および住民福祉の向上に寄与されました。

就任以来、国家財政、地方財政の危機的状況の中で砂川市の財政基盤を立て直すため尽力されました。公共事業依存の影響により増加し続けていた地方債について、公債費負担適正化計画を策定し、積極的な繰り上げ償還等を行い、財政基盤の安定を図られました。さらにこの間、市民参加による行政改革に取り組み、事務事業の見直しや各種補助金の削減、職員人件費の削減等を実行されました。

地域活性化に関しては、人口減少や高齢化の進行、近隣市における大型店の進出などにより疲弊した中心市街地ににぎわい

を取り戻すべく、市街地再開発事業に着手し、中規模店舗と小売店舗の集約および中心市街地に不足していた買物駐車場の整備に取り組みました。さらに、北海道で初となった内閣総理大臣認定の中心市街地活性化基本計画を策定し、コンパクトで効率的なまちづくり、商店街の活性化、まちなか居住を基本方針に、新たなまちの形成に尽力されました。加えて、長年の懸案事項であった駅東部開発にも着手し、自由通路によりJR砂川駅から直結する地域交流センターゆゆうの建設や、隣接する道営住宅の誘致、さらには市営住宅の建設など、砂川市のまちの再生を果たしました。

また、市民が心豊かに安心して暮らせるまちを目指し、保健・医療・福祉の充実に取り組みました。子育て支援センターおよび地域のコミュニティセンターを併設した保育所2棟の移転改築、特別養護老人ホーム、デイサービスセンターの移転改築、福祉複合施設の新設など、少子化・超高齢社会に即応した事業を実施されました。さらに、市民のみならず道内各地から多数の利用がある市立病院は、医療機器・スタッフの充足により手狭となり、加えて

老朽化により耐震性を高めることが命題となっていたことから、市立病院の移転改築を決断し、2年余りに及ぶ工事期間を経て、道内でも屈指の最新医療機器とヘリポート等の設備を整えた公立の総合病院となりました。現在では、空知圏域の基幹病院として近隣市町からも患者や救急車を受け入れ、また、全国的な医師不足が問題になる中、90名を超える医師を抱え、常に定員を上回る数の研修医が希望を寄せる人気病院となっています。

これら数々の地方自治の発展に寄与された功績により、平成10年に藍綬褒章、同24年には旭日中綬章を受章されました。また、同年には、砂川市名誉市民に推挙されています。



7月9日に行われた市葬の様子

故菊谷勝利氏 略歴

- 昭和14年6月26日 増毛町で出生
- 昭和33年 留萌高等学校卒業
- 昭和36年 砂川市役所奉職
- 昭和46年 砂川市議会議員(7期)
- 平成11年 砂川市長(3期)

【主な役職】

- 平成11年5月～平成23年4月 北海道河川環境整備促進協議会会長
- 平成11年6月～平成23年4月 財団法人北海道子どもの国協会理事・副理事長
- 平成11年7月～平成23年4月 空知義務教育施設整備促進期成会会長
- 平成15年2月～平成23年1月 B & G 全国市長会議会長
- 平成17年5月～平成23年4月 北海道市長会理事
- 平成18年4月～平成23年4月 財団法人北海道地域医療振興財団理事